

大阪～風の道～見える化計画

川辺のクールスポットをアピールし、にぎわいを創出する

「大阪の夏は暑い」というけれど、都心部にも涼しい場所があります。ご存知ですか？身近な例として、大阪南の繁華街を東西に流れる道頓堀川は、都会のなかの風の道として機能しています。

クーラーでだるくなった体は、自然の風のゆらぎを欲しています。さあ、クールスポットに出かけて、夕涼みをしませんか？

提案1

風の道には風が見える仕掛けを設置する。

たとえば、旗やオブジェが風にはためく様子で風の流れを可視化したり、風鈴など音で風の強弱を表現することもできる。人間の五感に訴えて、涼しく快適なイメージを掻き立てる。



「水の都」と呼ばれている大阪には、中心部を流れる大小さまざまな川があり、人々に潤いと涼を与えています。

しかし、防潮堤が残る場所では人々と水との距離感があり、川を身近に感じる親水空間とは言えない残念な状況です。

提案2

より親しみのある水辺空間を創出するために、防潮堤を活用した川床を設置し、夕涼み台として、カフェバーやレストランの営業を可能にする。

西から冷涼な海風が通り抜ける道頓堀川に3つの提案

提案3

木陰が全くない湊町リバープレイスに、シェルピンスキー四面体構造をもつ立体的フラクタル日除けを設置し、人工的な日影を創設する。木陰と同様の効果をもちながら*、落ち葉や流木の心配もなく、この場所に適している。

*酒井敏ほか:シェルピンスキーの森実証実験、ヒートアイランド学会第4回全国大会、pp.92-93、2009



上の写真は湊町リバープレイスのウッドデッキとその熱画像。表面温度は60℃を超えている(2006/8/2午後2時)



左の写真は日本科学未来館で2009/6/24より8/31までの間、メインエントランス前にておこなわれているシェルピンスキーの森野外実験展示の様子。未来館のホームページより転載。

